

修士論文
2010年7月

中国人私費留学生の言語習得と生活適応
—来日後半年間の変化を中心に—

指導 佐々木倫子 教授
言語教育専攻
208J4901
許岩

目次

第1章	はじめに	1
第2章	先行研究	2
第3章	調査概要	3
第4章	協力者の背景	3
4.1	アンケート協力者の背景	3
4.1.1	アンケート協力者の人数	3
4.1.2	アンケート協力者の属性	4
4.1.3	来日の目的	4
4.1.4	日本語レベル	5
4.2	インタビュー協力者の背景	6
第5章	調査結果の分析	7
5.1	生活面について	7
5.1.1	居住状況	7
5.1.2	アルバイトの状況	11
5.1.2.1	アルバイトをする理由	11
5.1.2.2	アルバイトの種類	12
5.1.2.3	アルバイトの実態	16
5.2	言語面について	18
5.2.1	日本語の習得	18
5.2.1.1	聞く能力	19
5.2.1.2	話す能力	20
5.2.1.3	書く能力	20
5.2.1.4	読む能力	21
5.2.2	日本語の運用状況	22
5.2.2.1	学内	22
5.2.2.2	学外	31
5.3	人間関係	36
5.3.1	学内	37
5.3.2	学外	38
5.4	留學生活の評価	42
5.4.1	アンケート調査の結果	42
5.4.2	インタビュー調査の結果	44
第6章	まとめと今後の課題	45

謝辞

参考文献

参考サイト

中国人私費留学生の言語習得および生活適応

—来日後半年間の変化を中心に—

第1章 はじめに

在日の留学生は留学経費によって、3種類に分けることができる。国費外国人留学生、外国政府派遣留学生と私費留学生である。

近年の調査によると、日本の外国人留学生の中では私費留学生が圧倒的に多く、私費留学生は留学生全体の90%以上を占めている。そ

の中で、半分以上は中国人留学生である。このような大人数の中国人私費留学生の日本での適応問題を無視することはできない。

来日の初期に、言語面、生活面、及び学習面においては、たくさんの問題を自分で直面しなければならない、私費留学生としての稿者はいろいろな適応問題も出てきた。そのきっかけで、在日中国人私費留学生を研究対象とし、来日後の半年間の、日本での日本語習得および生活適応状況における問題点、および発生原因を明らかにすることを研究内容にした。

第2章 先行研究

先行研究には、在日外国人留学生全体の適応状況についての研究は多いが、中国人私費留学生についての研究はまだ少ない。特に、縦断的な手法での中国人私費留学生の適応状況に関する研究は極めて少ないといえる。そこで、本研究では、縦断的な手法で、中国人私費留学生の来日後半年間を3つの段階に分け、言語(日本語)習得と生活適応状況における変化、問題点と原因を明らかにする。

第3章 調査概要

研究目的を応じ、アンケート調査と半構造化インタビュー調査を行った。調査対象は2008年9月に来日し、東京O私立大学に留学する中国人私費留学生の大学院生と別科生となった。調査期間は協力者来日後の半年間を限定し、この半年を2ヶ月ずつ3回に分け、2008年12月、2009年2月と5月に行った。

第4章 協力者の背景

協力者は同じO私立大学の2008年9月入学した中国人私費留学生であり、全員大学卒業である。日本語能力試験1級に合格した人もいれば、合格していない人もいる。留学の目的は大学院への進学と大学院の学業を完成することである。

第5章 調査結果の分析

調査で、生活面については、協力者の居住状況とアルバイト状況を主として分析した。金銭上と生活上のトラブルを避けるように、一人暮らしにした協力者は多かった。しかし、一人暮らしで起こった精神的な孤独、不安、コミュニケーション不足などのような問題は、協力者自己調整しなければならない。

アルバイトについては、すべての協力者はアルバイトに従業している。多くの協力者は学費・生活費のために、学外の時間をほとんどアルバイトに費やすことが見られた。それによって、勉強とアルバイトの比重が変わっており、勉強時間も随分減ってきたという。その一方、アルバイトへの集中で体力も非常に消耗し、生活スタイルが単一になった末、留学生活への評価も低くなる傾向も見られた。

言語面について、協力者の学内と学外の日本ご運用状況を分析した。協力者の来日半年後の上達度

は、日本語の四技能によって若干のばらつきはあるが、各能力はそれぞれ伸びていたことがわかった。日本語の運用については、学内では日本語はアカデミックな場面でのみの使用言語で、中国語はコミュニケーション言語になるという現象が見られた。学外では、アルバイト先は主な日本語運用場所としている。

人間関係面については、学内で多くの協力者は中国人同士との付き合いは主な人間関係としている。学外では、アルバイト先で知り合いになった人との付き合いは主としている。しかし、協力者は来日初期に、どうしても日本人と接触したいという希望があっても、母国人同士との交流から得られる精神的なリラックスと励ましは取って代えられないということがわかった。

留學生活の評価について、満足度は時間が経つにつれ、下がっていくというところが見られた。学業・経済・日本語問題は満足度に重要な影響を与えているという。

以上の面についての分析を通し、中国人私費留学生協力者は、来日してから半年間の、日本語習得と生活適応における主な問題点は4点にまとめることができる。「母語中国語への依存は日本語の運用に影響を与える」「日本語学習・運用のストラテジーには限りがある」「交友関係が狭い」「生活スタイルは経済問題に左右される」ということである。

これらの問題が発生した要因は4点、つまり、「経済問題」「日本語の能力」「言語環境」と「留学に対する姿勢」に総括できる。

経済問題については、留学生自身と保護者両方は留学費用のことを十分覚悟すべきである。一方、学校側の私費留学生に対する経済的支援も不可欠である。奨学金、授業料の減免、安い学寮の提供、住宅・食事・医療費用への補助などのような支援制度の拡充も望まれる。

日本語の問題については、学校側から日本での基本生活に必要とされる、例えばアルバイトの応募・面接場面の用語の指導のような、渡日初期を順調に乗り切るための日本語の支援を提供すべきだと思う。

言語環境の問題を解決するには、留学生が地域日本語教室に参加することが一つの解決策になる。その情報を留学生の入学初期に学校側が留学生に提供してほしい。また、留学生と日本人学生との交流の促進という目的で、日本人学生と新たな交流の機会を提供することも、学校側に望みたい。

最後、留学生自身は留学目的に対する明確な認識が最も重要であると思われる。留学初期に新環境への不適応で、感情の起伏が激しくなることは留学生によく見られるが、留学生自身は積極的に自分なりの解決法を見つけ、消極的な感情から積極的な姿勢へと自己調整し、留学の目的を徹底的に追求することを望みたい。また、学校側による留学生への心理的な援助を充実する必要もあると思う。

第6章 まとめと今後の課題

本研究の研究結果は「日本語能力問題」「学業の問題」「人間関係の問題」のような、在日留学生が抱えている、一般的な問題もあれば、「中国語環境の影響」のような、中国人私費留学生に特有の問題も見られた。しかし、協力者の人数・調査地域が限定されているので、本研究で究明した問題点が在日しているすべての中国人私費留学生に適用できるとは言えない。

今後、引き続き在日中国人私費留学生の適応状況に注目し、時代の変遷による中国人私費留学生の適応状況の変化を把握すべきである。そしてこれから日本へ留学しようとする中国人私費留学生の参考になるような形で必要な留學生活情報が発信できるよう、当事者としての声をあげていきたい。

参考文献

- 浅野慎 (2005) 『中国人留学生・就学生の実態と受け入れ政策の転換』 神戸大学発達科学部
- 井上孝代 (1995) 『留学生の発達援助—不適応の実態と対応—』 多賀出版
- 井上奈良彦 (2007) 『日本の国費留学生の異文化的適応』 『Kyushu Communication Studies』 Vol. 5 pp. 61-74
- 尹明実(2008) 『東アジア州学生の教室外における異文化コミュニケーション—アルバイト・社交場面を中心に』 桜美林大学 2008 年修士論文
- 大熊道明(1995) 『在日留学生の生活と意識』 『山村女子短期大学紀要』 8,39-48
- 大橋敏子他(1992) 『外国人留学生とのコミュニケーション・ハンドブック—トラブルから学ぶ異文化理解—』 株式会社アルク
- 岡益巳(1992) 『中国人私費留学生に関する調査—岡山県の場合—』 『研究報告書』 27、1—26 岡山大学産業経営研究会
- 岡益巳・深田博巳 (1995) 『中国人留学生と日本』 白帝社
- 岡益巳・深田博己・周玉慧 (1996) 『中国人私費留学生の日本社会への適応とソーシャル・サポートの関係』 『岡山大学経済学会雑誌』 28(1), 1-22
- 葛文綺(2007) 『中国人留学生・研修生の異文化適応』 溪水社
- 嶋田和子(2009) 『ワイワイガヤガヤ—教師の目、留学生の声—』 教育評論社
- 孫長虹(2004) 『中国人留学生の日本観』 『多元文化』 V.4 pp217—230
- 高井次郎(1989) 『在日外国人学生の適応研究の総括』 『名古屋大学教育学部紀要 教育心理学科』 36:139-147
- 田中共子(1999) 『在日留学生の異文化間ソーシャル・スキル学習』 岡山大学文学部研究業書 20
- 陳金娣・高田谷久美子 (2008) 『在日中国人留学生の勉学・生活におけるソーシャルサポート』 『山梨大学看護学会誌』 Vol.6 No.2, 17-24.
- 出原節子 (2004) 『日本留学の成果—留学生は留学経験をどのように評価しているか』 『富山大学留学生センター紀要』 富山大学留学生センター
- 朴金秋 (2007) 『在日留学生のネットワーク構築に関する研究—中国・韓国・台湾の留学生の事例を中心に—』 桜美林大学 2007 年博士論文
- 横田雅弘・白土悟(2004) 『留学生アドバイジング—学習・生活・心理をいかに支援するか』 ナカニシヤ出版
- 横田雅弘(2009) 『留学生アドバイジング』 『平成 21 年度日本語学校教育研究大会』 財団法人日本語教育振興協会 10-15

参考サイト

独立行政法人日本学生支援機構(2010 年 5 月 11 日) :

<http://www.jasso.go.jp/ryugaku/index.html>

Study In Japan 日本留学総合ガイド(2010 年 4 月 8 日) :

<http://www.studyjapan.go.jp/jp/index.html>